

印旛沼流域水循環健全化会議 第21回委員会

議事要旨

日時：2013(H25)年7月31日（水）14：15～17：25

場所：千葉市商工会議所 14階第1ホール

出席者：後記参照

1. 議事次第

- (1) はじめに
- (2) 昨年度の取り組み内容
 - 1) 前回委員会での指摘と対応
 - 2) 昨年度の取り組み報告
- (3) 今年度の取り組み内容
 - 1) 行動推進体制の見直し
 - 2) 今後の取り組み方針
 - 3) 取り組み紹介
- (4) その他事項
 - 1) 北千葉道路事業の報告
 - 2) 印旛沼流域環境・体験フェアの開催概要
 - 3) みなさまへのお願い（WEB）

2. 配付資料

- 配付資料-1：議事次第、座席表、名簿
配布資料-2：印旛沼流域水循環健全化 今後何をすべきか
配付資料-3：本編資料（パワーポイント資料）
配付資料-4：参考資料（あゆみ、スケジュール表、市町村みためし一覧）
配付資料-5：年次報告書 2012 年度版（案）
配付資料-6：印旛沼流域水循環健全化会議規約改正案
配付資料-7：ご意見シート

3. 議事要旨

(1) はじめに

【説明】配付資料2（説明者：虫明委員長）

- ・ これまでの健全化会議での取組成果を振り返り、流域水循環の健全化、流域再生には時間がかかること、継続して取り組みを行っていくことの重要性について、お話をいただいた。

(2) 昨年度の取り組み内容

1) 前回委員会での指摘と対応

【説明】配付資料3（説明者：事務局 銅副主幹）

前回第20回委員会（2012（H24）年7月開催）の主な意見と事務局の対応について説明した。

2) 昨年度の取り組み報告

【説明】 配付資料3（説明者：事務局 中村副主査）

昨年度に健全化会議が実施した取り組みの報告を行った。

【質疑】 ※1) と 2) をまとめて質疑

- ・ 調整池改良手引きの内容を教えてください。また、ため池は手引きではどのように扱われているのか。（太田委員）
⇒年次報告書 p14 に簡単な内容記載がある。調整池の流入口付近を改良することで負荷を削減できる。また、ため池は現時点では整理していない。（二瓶 WG 座長）
- ・ 手引きは印刷物となっているのか。誰でも見ることができるようにしておいてほしい。（虫明委員長）
⇒現時点では、印刷物にはしていない。WEB サイトにも掲載していないが、今年度の取組で周知を図っていきたいと考えている。（事務局 藤原主任技師）
- ・ 市町村みためしに関連して、高度処理型浄化槽の取り組みがあるがリン除去型なのか。リン除去型の普及を進めるために、条例化等を進めることはできないか。（太田委員）
⇒リン除去型の普及率は非常に低い。初期費用が高く、また電気代、鉄板交換代が高いためである。生活排水 WG ではリン除去型を普及させるために、制度化について検討を進めているところである。（千代 WG 座長）
⇒条例化は霞ヶ浦流域などで事例はあるが、義務づけは難しい。補助制度の充実を進めていきたい。（事務局 櫻岡副課長）
- ・ 市町ごとの補助制度の現状については、事務局で情報の整理を行い、後日説明をお願いする。（虫明委員長）
- ・ p5 の下段の印旛沼ルールについて教えてください。（高橋委員代理）
⇒ルールを作成するに当たっては、事前に説明会を開催し、各市町、関係者に照会し、その意見を反映した。昨年度の第 20 回委員会で提案し策定したところである。しかし、ルール策定後の運用状況はまだ把握しておらず、今後の WG の課題である。（二瓶 WG 座長）
- ・ 八千代市が行ったオオフサモの除去の場所を教えてください。また、前年度に次年度の事業予定を教えてください。基金での調査に反映することができる。また、それらの調査結果は事務局でも把握してほしい。
⇒新川の島田谷津の水路で行った。具体的な箇所については、後ほど箇所図を渡す。（八千代市）
⇒特定外来種対策を検討する仕組みを作る予定であり、データの共有についても考えていきたい。（事務局 徳留班長）
- ・ 桑納川河口でナガエツルノゲイトウが大繁茂し、ヒメガマの生息を追いやっているという現状を踏まえてどう管理していくのか。印旛沼の植生が現状どうなっているか、少なくとも 2 年に一度程度調査を行うなど、沼内の水草再生に取り組む前に現状把握を行って、問題を把握することが重要である。（本橋委員）
- ・ 市町村みためしでは、年度当初に計画を発表し、年度末に行動結果を発表することとなっている。県と市町村の情報共有、特に具体的な事業の箇所や実施内容などの共有、行動を連携し推進するために協働できる部分を見いだしていくことが重要である。（堀田委員）
- ・ 年次報告書 p19、過去・現在・将来のエコトーンを図があるが、霞ヶ浦で良い事例がある。矢板の手前に粗朶を設置すると、その間に砂が溜まり、エコトーンができてくる。また、外来魚については漁協と協力して駆除、肥料にするなどに取り組んでいる。（千賀委員）
- ・ 印旛沼環境基金で持っているデータを十分に活用して検討してほしい。（虫明委員長）
⇒外来種検討会を立ち上げていく予定である。これに関して、水草 WG などとも連携し、また基金等のデータも活用を図りながら進めていきたい。（事務局 中村副主査）

- ・ 北須賀工区での河川管理者による水草再生、植生帯整備と、北千葉道路建設事務所によるヨシ原再生が取り組まれているが、行動連携推進の中でお互いに連携し、どうやって無駄を省いていくかが重要である。（堀田委員）
- ・ 植生帯整備の図には、河川と道路事業での整備箇所を分けずに合わせて示すべきである。資料を見る人にとって事業者による違いはわからない。同じ植生帯の整備である。道路事業では鳥類のすみかを再生することが目的であるため、事業範囲だけでは括れない。今後は、河川事業と道路事業の整備の一体化を考えていかななくてはならない。（虫明委員長）

(3) これまでの取り組みと課題の整理

1) 行動推進体制の見直し

【説明】 配付資料3（説明者：事務局 徳留班長）

行動推進・連携の課題と組織体制の見直し、行動連携推進委員会の立ち上げ、規約の改定について説明した。

【質疑】

- ・ 住民への周知を行うために、市町で住民により近い部署を健全化会議のメンバーに入れることはできないか。（太田委員）
⇒規約にメンバーとして入れることはすぐには難しいのではないかと。そういう精神は規約には入っている。指摘の点は行動連携推進委員会での取組の中で議論していく必要はあるが、規約に入れるものではないと考える。（虫明委員長）
⇒太田委員ご指摘の地域住民に対する意識啓発は重要であると考えており、市町連携WGや行政部会等で、住民啓発などを図っていきたい。（事務局 徳留班長）
- ・ 太田委員には、7月24日に実施した大流川水草探検隊で、自ら地元で動いていただき、地域の協力を得たことで開催できたという経緯がある。そのような事例もある。（堀田委員）
- ・ 規約案については、必要に応じて今後修正することとして、改正案について承認いただきたい。（虫明委員長）
- ・ 異議なし（各委員）
- ・ 規約案は、提案の通り承認された。（虫明委員長）

2) 今後の取り組み方針

【説明】 配付資料3、および4（説明者：事務局 徳留班長）

今年度の行程表、今度の連携推進のあり方について説明した。

【質疑】

- ・ 新しい組織体制図について、取組推進には各WGが特に重要な位置付けであるが、現段階では具体的に何を担っていくのか明確になっていない。また、取組の進捗についても各WGが何を担って評価するのか、また8つの重点対策群に対して、WGがどのようなところを担ってきて、今後取り組むのかを整理すべきである。（小倉委員）
- ・ 各WGでは今後どのように検討を進める予定か。（虫明委員長）
⇒9月に次回の行動連携推進委員会を予定しており、そこで議論したい。現在、各WGにおいて座長を中心に議論しているところである。（事務局 徳留班長）
- ・ それまでに、個別のWG開催は考えているのか。（虫明委員長）
⇒個別に開催するものもあるし、連携して開催するものもある。課題に合わせて柔軟に開催方式を考えたい。（事務局 徳留班長）
- ・ 住民との関わりが少なかったのではないかとと思っている。技術論での議論は進んでいるが、実践していくには住民の力が必要になるし、このような場で議論もしていけないと。住

民の施策に落とし込んでいくところでは、環境社会学、環境心理学などが必要になるのではないか。（味埜委員）

⇒他の地域では、取り入れた事による成功事例はあるのか。（虫明委員長）

⇒印旛沼流域では、多くの問題が絡んでいるので、それらを入れることですぐに解決するとは思わないが、この場にそのような議論があってもいいのではないか。住民の目線を取り入れることが重要と考える。社会学的な要素を取り込むことを考えてはどうか。（味埜委員）

- ・ 住民へのつながりを出すためには、マップなどの情報を発信していく必要がある。各取組での情報を共有し、またそれをいかに住民に提示するか。または各取組の関連、どこでどのような取組を行っているかを見える化することで、住民を巻き込んでいく。（原委員）
- ・ 環境分野ではいろいろやっているが、この分野以外には発信されていない。印旛沼に近い臼井小学校ですら、この印旛沼の取組のことは知られてない。情報発信の議論もしていきたい。（太田委員）
- ・ 住民だけでなく、市町の担当者もこの取組を知らない。市町の議会で講演する機会があったが、彼ら政治家もこの取組を知らないという状況であった。つまり、健全化ではお金にならない。（虫明委員長）
- ・ 分野など項目レベルで展開する場合はいいが、空間レベルでも診断書、処方箋をつくることを考えるべきである。データのカルテ化を行い、診断、診察を行えるようなものを考える必要がある。生態系だけでなく、水質、土地利用、住民活動などで適用できる。それを担うのが市町であり、カルテ化されていると市町も動きやすくなるのではないか。体制にデータセンターがあるので、誰もが分かるような情報の集積、充実を進めてほしい。（中村委員）
- ・ 水質などの観測データだけでなく、各河川流域間の関係もかわるような空間情報を集積し、皆さんの議論に活用いただくことも考えている。空間情報、地図情報を公開し、関心を持っていただくための材料づくりをしている。（近藤委員）
- ・ 住民に取り組んでもらいたいことを伝えることは重要であり、健全化会議でもそのようなパンフレットは作ってきている。（二瓶 WG 座長）
- ・ WG で検討していることと、実際に市民にやってもらいたいこと、13 の取組指標とは必ずしも合致していない。例えば、浸透 WG では透水性舗装の整備は何も検討していないことがある。WG の検討内容、対策、住民にやってもらいたいこととの関係を整理した上で、今後なにをやっていくべきかを考えていく必要がある。（二瓶 WG 座長）
- ・ 13 取り組み指標の評価（シート 28）を流域別に作成する等、アトラス（地図）集のような負荷量や対策量の分布を地図で表せると良い。また、住民に取組を伝えるためにはツールが必要である。ニュースレターは大変だが web サイトはできる。広報に力を入れるべき。（岩見委員）
- ・ 筑後川では、筑後川新聞を、月 2 回、4 ページのものを出している。是非やってみたいが、担う人は大変である。やるという人が出てきてほしい。（虫明委員長）
- ・ 現在、印旛沼で起きている問題を考える必要がある。問題となっているのは、①ラジコンヘリから出るガソリンによる植生への影響、②漁師が漁獲した外来種の再放流や在来魚であるコイ・フナの投棄、③魚網の不法投棄、④釣り人のマナー、針の投棄、がある。今起きている問題をどう対処するか議論することもお願いしたい。（本橋委員）
- ・ そのような問題があることは知らなかったし、全ての人が知っていることではないと思う。（虫明委員長）
- ・ WG の構成メンバーには、行動を期待する地域や市町のメンバーを入れるべきである。現場の意見も出てくるはずである。すべての問題に対処できるとは限らないが、2015 年までに体制を整えていかないといけない。（堀田委員）
- ・ 次回の行動連携推進委員会で、市民活動・企業連携の具体をどうするのか、検討してほしい。議論がアイデア段階でも構わないので、市民や企業の意見をどう反映するか、議論したい。

(横山委員)

- ・ 舟戸のかっぱ公園にエコトイレを設置しているが、維持管理の費用が捻出できない。佐倉市から支援を受けるため、健全化会議からも要請をお願いしたい。(太田委員)
- ・ NPO が自ら整備したものであるが、健全化会議での取組の視野に入った設備であると考えられる。事務局と相談して検討したい。(虫明委員長)
- ・ 印旛沼には、水に触れるスポットがない。賑わいがないと印旛沼にはいかない。地元の高校のヨットクラブに利用してもらうことも考えられる。一度でも印旛沼を訪れてもらう、水を実感してもらうようなルートを作ることが必要ではないか。タレントを連れてくることで人も集まり、そうすると首長も印旛沼に目を向けてくれるようになる。活動を後押しするような仕掛けが必要である。(山田委員)
- ・ 川は、人が使えば使うほどきれいになっていく。人が集まるためには何が必要か。例えば、吉野川ではイベントがあり、数万人が集まっている。これを 29 年継続していて、相当の努力をしていると思う。(虫明委員長)
- ・ 今は、子どもは沼に近づかないようにしているし、看板もある。水辺にいざなうなら、環境整備が必要である。(本橋委員)
- ・ 「印旛沼周辺ナビマップ」は、WEB などでダウンロードできるようになっているのか。(味埜委員)
- ・ 地図の著作権の問題があり、許可をもらっていない。今後検討する。(事務局)
- ・ 河川上流の市をどのように巻き込んでいくか。例えば、興味を持ってもらうためには、インパクトがある標語があると良い。例えば、「印旛沼で泳ごう」など。(佐倉市)

3) 取り組み紹介

【説明】 配付資料 3 (説明者：鎌ヶ谷市河川整備課 川崎氏)

鎌ヶ谷市での雨水浸透柵モニター制度および浸透の取組について説明いただいた。

【質疑】

- ・ 市町によっては、独自で先進的な取組を進めている。このような情報を収集して共有していきたいと思っている。(二瓶 WG 座長)

(4) その他事項

1) 北千葉道路事業の報告

【説明】 配付資料 3 (説明者：北千葉道路建設事務所 湯口副主査)

ヨシ原検討会におけるヨシ原再生、鳥類等の生物調査結果について説明いただいた。

【質疑】

- ・ ヨシ原検討会での調査結果や検討成果を、ぜひ英語の論文などに整理して発信できないか。世界でもこの取組は、先進事例と思う。(山田委員)

2) 印旛沼流域環境・体験フェアの開催概要

【説明】 配付資料 3 (説明者：事務局 藤原主任技師)

今年度の環境・体験フェアの開催概要について説明した。

3) みなさまへのお願い(WEB)

【説明】 配付資料 3 (説明者：事務局 藤原主任技師)

いんばぬま情報広場への各関係者のイベント情報の掲載を依頼した。

【質疑】

- ・ 情報発信には、WEB サイト以外にも、ツイッターやフェイスブックなどの活用も考えてはどう

か。（原委員）

- 環境・体験フェアの開催にあたっては、会場周辺の町内会への発信、アプローチも検討いただきたい。自分も動くので、健全化会議からもサポートをお願いしたい。（太田委員）
- イベントは他にもあると思う。花火やお祭り、花見など、楽しいイベントも入れていただきたい。（虫明委員長）

表 第21回委員会 出席者リスト

	氏名	所属・職名	出席	代理	
委員長	虫明 功臣	東京大学 名誉教授	○		
委員	味埜 俊	東京大学大学院 教授	○		
(学識者)	山田 正	中央大学 教授	○		
	中村 俊彦	県立中央博物館 副館長	○		
	原 慶太郎	東京情報大学 教授	○		
	堀田 和弘	元千葉敬愛短期大学学長	○		
	千賀 裕太郎	東京農工大学 名誉教授	○		
	近藤 昭彦	千葉大学 教授	○		
	岩見 洋一	独立行政法人土木研究所 上席研究員	○		
	本橋 敬之助	(財)印旛沼環境基金 上席研究員	○		
	小倉 久子	元 県環境研究センター水質環境研究室長	○		
	二瓶 泰雄	東京理科大学 准教授	○		
	千代 慎一	元 県 環境研究センター長	○		
	仲野 隆三	一般社団法人 JC総研 協同組合研究部 客員研究員	○		
	長谷川 雅美	東邦大学 教授	×		
	高村 典子	独立行政法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長	×		
	福濱 方哉	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官	○		
委員	清水 豊勝	印旛沼土地改良区 理事長	代	事務局長	高橋 修
(水利用者)	小川 佳男	印旛沼漁業協同組合長	×		
委員	太田 勲	NPO法人印旛沼広域環境研究会 理事長	○		
(市民団体)	堀川 武	佐倉印旛沼ネットワークの会 代表幹事	○		
	美島 康男	NPO法人印旛野菜いかだの会 理事長	○		
	金親 博榮	谷当グリーンクラブ 代表	×		
	横山 清美	環境パートナーシップちば アドバイザー	○		
委員	中村 徹立	国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所長	○		
(行政等)	安樂 敏	農林水産省関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所長	○		
	及川 和彦	農林水産省関東農政局印旛沼二期農業水利事務所長	○		
	子安 幸雄	独立行政法人 水資源機構千葉用水総合管理所長	○		
	板倉 正典	県 総合企画部 次長	代	水政課副課長	山口 浩
	矢沢 裕	県 環境生活部 次長	○		
	湯橋 勤	県 農林水産部 次長	代	安全農業推進課長	冨塚浩一
	山崎 英夫	県 農林水産部水産局長	代	漁業資源課班長	玉井雅史
	宮内 常吉	県 県土整備部 次長	○		
	田中 弘和	県 県土整備部 次長	代	下水道課長	北嶋滋只
	知地 顕男	県 水道局技術部 次長	○		
	大林 正章	県 企業庁管理・工業用水部次長	○		
	月岡 正美	県 教育庁教育振興部 次長	代	指導課指導主事	野口智美
	渡辺 茂	千葉市環境局 環境保全部長	代	担当課長	冨塚秀典
	長岡 秀樹	船橋市建設局 下水道部長	○		
	諸岡 吉幸	成田市 土木部長	○		
	阿部 修	佐倉市 土木部長	○		
	宮下 直也	八千代市 都市整備部長	○		
	高地 健司	鎌ヶ谷市 都市建設部長	○		
	地引 弘之	四街道市 都市部長	○		
	中村 治幸	八街市 経済環境部長	代	環境課長	川崎義之
	須藤 賢一	印西市 都市建設部長	代	土木管理課主査補	今関俊行
	小林 道長	白井市 環境建設部長	○		
	相川 直雄	富里市 都市建設部長	○		
	鈴木 正義	酒々井町 経済建設担当参事	○		
	池田 誠	栄町 建設課長	○		
	川田 晴夫	長門川水道企業団 水道課長	代	係長	篠塚勝巳
オブザーバー	若林 伸幸	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 流水管理室長	×		
	徳道 修二	国土交通省関東地方整備局河川部 河川環境課長	×		
	田畑 和寛	国土交通省関東地方整備局河川部 地域河川課長	代	課長補佐	飯島正典
	滝浪 善裕	県 県土整備部河川整備課長	○		
	高澤 秀昭	県 千葉土木事務所長	○		
	神作 秀雄	県 葛南土木事務所長	×		
	木村 俊治	県 東葛飾土木事務所長	×		
	櫻井 謙治	県 印旛土木事務所長	○		
	木村 善衛	県 成田土木事務所長	○		
	畠山 典人	県 北千葉道路建設事務所長	○		